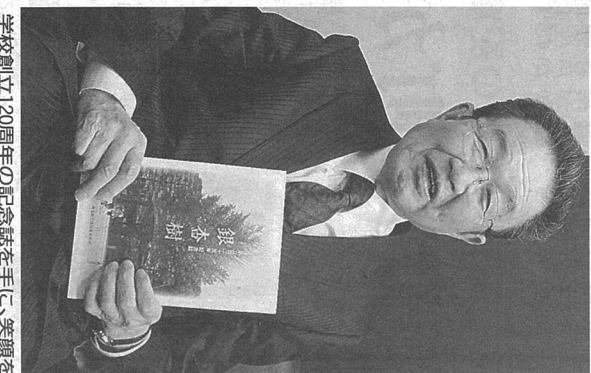


自然に身に着いた「教養」



ヤオコー会長 川野幸夫さん 1960年度卒



学校創立120周年の記念誌を手に、笑顔を見せる川野幸夫・県立浦和高校同窓会長

埼玉県小町に暮らす美家。その英語の先生が、人との縁に英語の個人レッスンを受けてきました。縁は不思議なもので

1942年生まれ。東京大学を経て89年に美家の「入江百貨」に入社。74年3月に社名を「ヤオコー」に改め、同10月に専務に就任。85年に社長に就き、2007年から会長。

増玉小町に暮らす美家の近所に、浦和から東大に進んだという中学校の先生が住んでいました。中学生の時、その先生に「前は俺の後継ぎ浦高に行い」と思っただけで、英

県立浦和高校

返済義務ない奨学金



奨学金の決定通知を受け取る在校生たち
—2015年12月（県立浦和高校同窓会提供）

かぞと思います。人間形成のうえで大切な「教養」を自然に身に着けられた気がします。

「あとは、下宿に置いてあった旗屋書房の『日本文学全集』を片っ端から読みあげました。全部で6巻ぐらいあったかな。

今、埼玉県を中心に浦和圏で食品スーパーを経営していますが、これを高はこれまで、これからはと感じています。浦和はグローバル化が進み、世界で活躍できる人材が必要だと感じています。浦和に必要とされている人材を育て、役割を期待させています。高校時代の経験を、今の商売に生かしている。そんな気持ちで、もあり、同窓会長として「公財」県立浦和高等学校同窓会奨学財団を主導しました。

在校生に財団の奨学金を運用してもらい、世界の優秀な人と接点を持ち、刺激を受けてほしいと考えています。まだ奨学財団は、生まれながら、助成の金額や対人先が、海外留学などに活用し視野が広がった「真実」が、世界で活躍する人材になってくれることを期待しています。

同窓会が財団設立

県立浦和同窓会は3年前、公益事業財団を設立し、自営体や企業が多い「県立浦和高等学校同窓会」が財団を設け、奨学金事業を行うことを決めた。自営体や企業が多いが、県立高の同窓会が奨学金の財団を設けた例は過去になかなかありをみせている。

浦和高校の先進的な取り組みから、全国各地の高校から問い合わせが相次ぎ、広島県立広島國英寺高校も同様の財団を設立した。浦和高校の取り組みが、この取り組みには、全国各地の高校で増えている。

約2万3000人の卒業生から、いずれも返済義務はない。財源は、約50万円以内）を執行して、卒業生の進学費用（一部助成）を卒業生への修学資金（一部助成）（1人50万円以内）▽海外留学する在校生への費用（一部助成）（1人30万円以内）▽イベントに参加する在校生への奨学金の決定通知を受け取る在校生たち

募集 思い「私」の私

卒業生のみなさんから「私の思い出」を募集します。300字程度の思い出、または友人の書きたり、職業、住所、電話番号、年あゆみなどを、氏名、生年月日、お問い合わせ先を明記したうえで、〒100-8051、毎日新聞関東編集部「母校」の係（住所不要）へ、メール（mainichi.c_o.jp）へ、紙面や毎日新聞の紹介コーナーに掲載の場を差します。